

## “私をイエス・キリストへの信仰へと導いた聖句”

皆さん、おはようございます！ここに来て、お会いするのは初めてです、大阪インターナショナルチャーチの会衆の皆様。OICの代表である、落合真一郎先生とは同志で、同じ大学で一緒に勉強していて、当時は同大学の聖書研究会に所属していました。私たちのクラブのメンバーは、しばしば学校の芝生に集まり、祈りを捧げました。卒業後、それぞれがそれぞれの道を歩み始めました。しかし、最近、彼から、OICでメッセージの説教の可能性がどうかの問い合わせの郵便が届きました。私といえば、卒業後は主の奉仕に専念し、神学校に通い、パプアニューギニアでウィクリフ聖書翻訳者として働き、宣教活動の後、日本に帰国、牧師の奉仕さらには長年、福音聖書神学校校長と一キリストのしもべとして約55年間務めました。そして今、私は退職した牧師です。

落合君の要請を受け取った後、私は祈りの中で、主は私の回心経験についてのメッセージを分かち合うように、神は、私に指示されました。私にとって、人生の聖句というべき聖書の一節を持っています。さて、私がこの聖書の一節をどのように手かを簡単に皆様と、ここで共有します。

大阪大学一年生の時、私は四国新居浜の田舎から来て、文字通り大都会大阪の一年生でした。思いがけず、私はある大きな問題に巻き込まれました。私は自分の将来の人生について考え始め、自問自答しましたのです。「私は何のために生きているのか」「私にとって大切な生き方とは何か」。突然にそんな疑問が私の中に浮かびました。私はそれらの質問に対する解決策を探すべく、努力し始めました。人生や哲学などの本を、むやみに、たくさん読みましたが、それらを読んでも意味のある解決策が見つかりませんでした。ある日、大学の掲示板に、大学聖書研究会主催の聖書メッセージ講座のお知らせが出ていました。**必要なことは一つだけです。**それは大阪大学聖書研究会からの聖書メッセージの講義の通知でした。私は文字通り、学生会館の講義室に引き込まれ、人生で初めて、聖書解説のメッセージを聞きました。これが主から与えられた助けであることを、今、理解しています。私は溺れそうになっていたので、助けになりそうなものは何でも捕まえようとしていました。

ストローのようなものではなく、本当の救いだったのです。ミーティングの後、私はギデオン新約聖書を与えられ、それを読み、近くの教会であるMB（メノナイトブレザレン）石橋教会に通い始めるよう勧められました。

今日は、救いのためにイエス・キリストに来る機会を与えてくれたこの聖書箇所を共有したいと思います。

## I 私は、イエスに来る前はマルタのようでした (vs. 40-41)

イエスと彼の仲間がベタニアに行ったとき、彼らは家に招待されました。そして、彼らをもてなす準備が始まりました。家の持ち主だったマルタは彼らを家に迎え入れ、彼らをもてなす準備が始まったのです。マルタは彼らのために食事を作るのに大忙しでした。彼女が一生懸命働いていると、妹のマリアが主の足元に座って彼の話の話を聞いていることに気がつきました。他の人の助けを借りずにすべての作業を自分で行うのに忙しかったマルタは、マリアがしていることに腹を立てました。それで、彼女はイエスのところに行き、こう言いました。

「主よ、姉妹は私だけにおもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか？ 手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

一方、私は、その時、十九歳の青年で、マルタとそっくりでした。彼女のように、私は多くのことを心配し、多くの不安でいっぱいでした。私は自分の将来と自分の死に解決策を持っていませんでした。たくさんの恐怖と不安でいっぱいでしたが、私の心は空っぽでした。

## II マリアの選択を私もすべきとの強い迫りと促しを受ける

マルタの訴えに対するイエス様のお答えは、次のようであった：

「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」(41節、42節)

その当時の私は、書物を通していろいろな人生の在り方を知識としては、持つようになったけれども、なに一つに対しても納得や確信がなく、ここにある空洞は、埋めがたいまにになっていた。これだという確信がどんな思想や、哲学に対しても持てなかった。

であるから、説教者からマリアが、彼女にとって必要な「ただ一つのこと」に従事できたことを知らされた時、私にもマリアがキリストの前で従事していたこと、すなわち、「主のことばに聞き入る」ことが必要なのではないかと強く示された。

講演会后、私は、主催者の聖書研究会の人々から手渡されたギデオンの赤い表紙の新約聖書をいただいて帰途の道に着きました。その日以来、勧められるままに、その聖書を読みイエス・キリストが語ったことばを理解しようとし、また、聖書の解き明かしを聞くために、日本メソヂストブレザレン教団の石橋キリスト教会の礼拝に出席するようになった。私の献身の生涯はこのようにして始められた。

## 結語

わたしの決断は正解であったと信じている。その後、私はクリスチャンになり、マリアから「取り上げられること」(42節)のなかった主イエス・キリストのおことばに聞く日々の生活に導かれてきた。ハレルヤ！

眞鍋孝 (文責)

### **Pastor Takashi Manabe (眞鍋孝牧師)**

眞鍋牧師は、神学校卒業後、約 15 年間は、ウィクリフ聖書翻訳協会の翻訳宣教師としてパプアニューギニアのクワンガ語圏で働き、その後、帰国し、日本メソヂストブレザレン教団 石橋教会主任牧師、教団立福音聖書神学校長として、約 22 年間の奉仕があった。2011 年退職後は、主に教団の諸教会での牧会援助に当たっている。